.3

第2740地区　創立／1990年9月29日　認証／1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：岡　光正 / 副会長：芥川　圭一郎 / 幹事：馬渡　圭一



2025～2026 年度クラブスローガン

例会に行こう

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：委員長 / 橋口　佳周　副委員長 / 倉科　聡一郎
委員 / 西村　浩輝、四元　清安、崎山　信幸、田中　啓輔、澤田　磨

本日の出席率７３．９１％：会員数５５名・出席２６名・欠席１２名・出席規定免除会員８名・ビジター０名
前々回の修正出席率８９．９０％：出席３２名・メークアップ０名

会長挨拶 / 岡 光正君



皆様こんにちは。最近は委員会活動も落ち着き、馬渡幹事とは一週間振りに会いました。終盤向けて最後まで気を引き締めて活動して参ります。今日は「ゴルフ用品」の話をしたいと思います。

ある報道によれば、ヤマハ撤退が浮き彫りにした「ゴルフ用品ビジネス」の厳しい現状、良いものを作れば売れる時代は終わった。という見出しで始まり「ゴルフ用品事業を終了する」と２月４日の夕方、ヤマハによる衝撃的な発表が飛び込んできました。このニュースを聞いて、「えっ、あのヤマハが!?」と驚いた一般ゴルファーは多いはずです。１９８２年にゴルフ用品事業に参入。楽器製造で培った金属加工やＦＲＰ（繊維強化プラスチック）の技術を生かし、世界初のカーボンヘッドクラブを発売しています。その後「インプレス」や、「RMX」などのブランドで長年、国内メーカーとしてクラブを出し続け、量販店の棚にも並んできた存在だからです。今回の事業撤退の判断は、単なる“人気の有無”というより、ゴルフ用品ビジネスを取り巻く経済環境の変化が、大きく影響した結果だと考えられます。発表資料で示されたのは、「事業の回復が見通しにくい」という点です。市場競争の激化、為替変動、原材料価格の上昇による収益構造の悪化、さらに「２０２５年問題」に代表される、ゴルフ人口の減少などによる事業環境の悪化です。

資料によれば、ヤマハのゴルフ用品事業は直近年度で売上高３３億円と、全社売上高の 0.7%にとどまり、事業利益は２期連続１０億円の赤字でした。近年は、原材料費や物流費の上昇が続き、同じ１本を作るにしてもコストが上がっています。値上げで吸収しようとしても、消費者は敏感です。価格を上げれば売れにくく、上げなければ利益が出ない。ここが経営として非常に苦しいところです。１０年前の２０１６年ナイキがゴルフ事業から撤退したことを連想させます。

ヤマハの発表では「ゴルフ用品事業は２０２６年６月３０日をもって終了し、事業終了後も既存商品のアフターサービス、修理および各種問い合わせには対応し「保証期間にわたり継続対応する」とのことです。また、今回のニュースはヤマハ１社の問題にとどまりません。特にドライバーはルール適合の枠の中で差別化しなければならず、開発競争が熾烈です。ヤマハの撤退はさびしい限りですが、同時にゴルフ用品が、今、どれほど厳しい経済環境にあるかを、一般ゴルファーにも分かりやすく示した出来事です。今後は、各社がどこに強みを絞り、どんな価値を提供して勝負していくのか。ゴルファー側も、その変化を知って賢く選ぶことが求められます。と締めていました。

私はまだ、ゴルフクラブを選ぶ領域には達しておりませんが、前回の中央会、ショートホールで初の「バーディーとニアピン」をとって喜んでいるとこです。この中には、最近２０万円近くの高額なドライバーを購入された方もいると聞きました。私は良く分かりませんが、今のうちに投資目的でヤマハの「インプレスや RMX」のドライバーを購入すると、数年後には値段があがるかもしれませんね？

この後、バンカー名人を購入された、前田眞澄ガバナー補佐の卓話となっております。前半を振り返り地区の活動内容などの話が聞けると思います。楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。

最後になりますが、来週の例会から５月末まで、例会場が「レオプラザ」に変わりますので、間違えがないようにお願い致します。来週、レオプラザでお待ちしております。

Report 幹事報告 / 馬渡 圭一君

１．例会変更・休会

＊佐世保東ロータリークラブ
　休会　３月１９日（木）
＊佐世保西ロータリークラブ
　休会　３月１７日（火）３月３１日（火）

(^_^) ニコニコボックス

岡 光正会長･芥川 圭一郎副会長･馬渡 圭一幹事

２月逃げ月の言葉どおり、あっという間に２月も終わろうとしています。瞬く間に季節がまた一歩進もうとしていますね。まだまだ寒暖差もはげしい毎日ですが、皆さま体調にはくれぐれもお気を付けください。さて、本日の例会は前田ガバナー補佐による会員卓話となっております。ガバナー補佐としての重要な役割など、貴重なお話を頂けるかと思います。本日の例会もどうぞよろしくお願いいたします。

前田　眞澄君

本日、ガバナー補佐として卓話をさせて頂きます。最近ガバナー補佐としての存在感が無いとの事で卓話でもしませんかとのご用命でお受け致しました。本当は砕けた話が好きなんですが、ガバナー補佐という立場上ロータリーに関したお話をさせて頂きます。質問は無しという事で宜しくお願い致します。

八重野　一洋君

去る２月２０日、２１、２２日相浦愛宕まつりの愛宕市初のステージイベントは大盛況のうちに終了しました。ご協賛頂いた中央ＲＣ会員の方、ありがとうございました。県立大学生サークル「クロスＴ」のメンバー、応援に鳳祭のメンバー、そして我々愛宕市活性化委員会のメンバーで一致団結し初のステージイベントが実現でき地元商店街さんからも称賛を頂きました。例年になく来場者も多く賑わっていたようです。ありがとうございました。

芥川　圭一郎君

先々週は部内幹部候補生の終業式を見学に江田島へ、先週は仕事で福岡へ行っておりました。そのため、本日は久しぶりの例会参加となります。江田島のあのピリッとした空気感に背筋が伸びる思いでしたが。。。すっかり通常モードに戻ってしまいました。

片桐　康利君

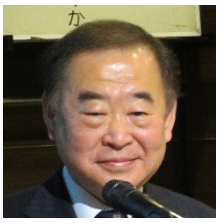
先日、議員会館に行った際に売店で高市首相のグッズがあったので買ってきました。大変人気という事で、売り上げはかなり良いそうです。私のおすすめは３色ボールペンです。ということで久しぶりにニコニコします。

本日の合計	8,000 円
本年度の累計	940,000 円

memo

〒857-0875 佐世保市下京町 10-6 太陽アネックスマンション 306 号室 TEL.0956-25-5595 FAX.0956-25-3445 Mail.chuo.rc@theia.ocn.ne.jp

本日の卓話



国際ロータリー第 2740 地区
第６グループ
ガバナー補佐　前田 眞澄様

本日は RLI（ロータリー・リーダーシップ・研究会）についてお話させて頂きます。RLI は 1992 年にアメリカのロータリーで採用されました。日本に於いての RLI の導入は 2008 年 6 月 2750 地区（東京都南部）が初めて導入されました。そして 2025 - 2026 年度には 30 地区が導入し実施しています。第 2740 地区においての 2025-2026 年度での RLI 実施状況ですが 2025 年　9/28 パートⅠ・11/30 パートⅡ・2026 年　2/22 パート Ⅲ・4/5　卒後ファシリテーター養成研修が予定されています。2025 - 2026 年度地区三大研修会に於いても 2025 年 3 月　地区チーム研修セミナー、4 月 PETS（2026-2027 年度では PELS に改名）5 月　地区研修・協議会その他　地区の各委員会でのセミナーにて実施されています。それでは RLI について少し詳しくお話します。

①RLI の使命ですが、RLI は、質の高いリーダーシップ教育を通じてロータリークラブを強化することを使命とする。多地区合同の草の根リーダーシップ開発プログラムです。

②RLI の理念ですが、RLI は、リーダーシップのスキルを持っているだけでは、優れたロータリーリーダーにはならないと考えています。優れたロータリーリーダーは、ロータリーの知識、ロータリーの過去及び現状に関する展望、ロータリーのあるべき姿に関するビジョンを持ち合わせていなければなりません。

③RLI の背景/なぜ生まれたのか？

ロータリー創始後、１００年経過において●社会構造の変化●人や社会に対する意識の変化●特に事業や職業の世界の激変に於いて異なった価値観や社会意識を埋める為には、その要因である根本的な問題点を分析し、充分に話し合い、各世代のロータリアンやロータリー世界の理解が必要と考えられました。

本当にロータリーを理解し、ロータリアンとして活動するためには、クラブ会員１人ひとりが、自発的に、自覚を持った話し合いをして、本当のロータリーを理解することが基本的な課題と考えられました。

④RLI の意義/何をなし得るのか？●RLI はロータリアンの知識を啓発し、一人ひとりのロータリアンのモチベーションを高め、リーダーシップを涵養するための全世界の連合組織である。●RLI はロータリーの組織や活動に関して、正しく、深い知識を持ち、高い指導力のあるロータリアンを支援するために活動している。

その様なプログラム性を持った RLI 研修に参加することで、ロータリアンとしての指導力が高められ、クラブや地区の更なる発展が期待できると考えられました。

⑤RLI の特色と研修方法/どのように行われるのか？　RLI の研修方法やカリキュラム内容については、RLI の原則や」指導方法に従いますが、世界の各地域や習慣の違いを尊重し、夫々の違いに応じた方法や内容を加えてよい事に成っています。研修のコースは、パートⅠ、パートⅡ、パートⅢ（各パートは 6 セッション/分科会で構成）の 3 日間と卒後コース（任意）と成っている。パートⅠ～Ⅲまでの研修を受講すると、RLI から修了書が贈られる。参加者は全部のコースに出席することが奨励されています。

長でなくとも、将来クラブで指導者となる可能性のあるロータリアンを奨励している。

⑥まとめにロータリアンは、自らの意思で RLI のどのコースにも出席することが出来ます。RLI の最大の目標は、自クラブの外にあるロータリーの世界を紹介することによってロータリーへの熱意を高め、また、クラブにおける優れたリーダーシップがあれば、世界の利益のためにロータリー奉仕の大きな可能性があることを示すことです。

RLI の修了者は、のちに役職別プログラムに参加する際には、ロータリーに関する素養を大いに高める事が出来ると考えられます。是非、皆様も RLI の研修を受講してみて下さい。これ迄と変わった景色が見れると思います。



ＳＡＡ：吉野　英樹
次回例会３月５日１２：３０～